

愛敬重之



愛敬重之公式HP : <http://www.aikyo-kuwana.net/>

2017年10月20日
第36期_後援49号
発行責任者：愛敬重之後援会
会長 伊藤 久志

後援会だより

皆さんこんにちは。後援会の皆さんには日頃からご支援をいただき感謝申し上げます。

平成29年第3回市議会定例会は平成28年度桑名市一般会計ならびに各特別会計歳入歳出決算の認定と平成29年度桑名市一般会計補正予算、各種条例制定・改正、報告、市道の認定についてでした。

今回の『後援会だより』では、最近の活動報告と、今回、一般質問を実施しましたので質問内容と答弁を紹介させていただきます。

最近の活動報告

1. 会派で福祉関連施設の先進市を視察

7月27日から28日と「お年寄りはお年寄りの施設」「しょうがい者はしょうがい者の施設」と区別することなく高齢者、子どもたち、赤ちゃん、しょうがいがあってもなくても、いろいろな人たちを同じ施設、エリアでサポートできている先進地、富山市「富山型デイサービス（このゆびとまれ）」「富山市まちなか総合ケアセンター」金沢市「シェア金沢」に行ってきました。



「富山型デイサービス（このゆびとまれ）」

現場で惣万代表と会話をしながら感じたのは、高齢者やしょうがい者が子どもの面倒を見ることで、笑顔が絶えず、時には喧嘩もあるようですが皆が助け合う普通の大家族のようでした。代表からは、普通の老人ホームだと、お年寄りたちが全く話もせず一日を過ごすことが多く、子どもと笑ったり、怒ったり、歌をうたったりすることがどんなりハビリよりも効果的だと説明され納得しました。

「このゆびとまれ」の特徴の一つとして、かつて利用者としてここに来たしょうがい者が、今は有償ボランティアとして働いており『当事者性を生かした循環型支援』です。

「富山市まちなか総合ケアセンター」

中心市街地に総曲輪小学校跡地でPPP【公民連携】事業により、総曲輪レガートスクエアを完成させ、その一角に福祉サービスを総合的に提供する中心拠点『富山市まちなか総合ケアセンター』が完成しました。ソフト面でも平成25年から在宅医療、在宅介護推進のための調査・研究・講演会（プライマリケア講座）、健康まちづくりを推進するマイスターを養成（健康まちづくりマイスター養成講座・地域包括的情報交換会・健康まちづくりフォーラム）と人材育成も開始しています。

産後ケア応援室



産後のお母さんの心身の回復と、お子さんの新しい生活を安心して過ごすことができるようサポートします。

病児保育室



お子さんが体調を崩し、保護者が仕事などで家庭保育できない場合、保護者の代わりに保育看護を行います。

まちなか診療所



訪問診療など、在宅医療のみを行う診療所です。（外来診療は行いません）

医療介護連携室

まちなか診療所の診療相談をはじめ、在宅医療・医療介護連携などに関する相談支援、研修会を行います。



カンファレンスルーム

医療・介護関係者とケア会議などを行います。



「シェア金沢」

(日本版CCRC構想のモデル事業)

日本版CCRCは「生涯活躍のまち」と定義付けられて、高齢者の移住先という解釈をされていますが、正確な解釈ではありません。ここが日本版CCRCのモデルになっているのは高齢者ばかりではなくしょうがい者も子どもも、それぞれ存在自体に意味があって、関わることでみんなが元気になっていくという意味。

(いろいろな人がごちゃ混ぜで生活するということのメリット) 知的しょうがい児や高齢者たちにとっても、さまざまな人たちと関わるのが大切です。例えば、しょうがい者たちはただでさえ上手に人間関係をつくるのが難しいですが、いろんな人と自然に関われる環境においてあげるとそれがうまくできるようになります。

同じしょうがいをもつ人でも軽度の人は自分よりも重いしょうがいをもつ人に対し力になってあげたいと思い、元気が出たりしますし、認知症の人でも子どもと一緒にいると元気になったりします。



2. ハイブリット街路灯5基を寄贈していただきました



8月30日、ハイブリット街路灯を避難誘導灯として、5基桑名市長島町北部地域に寄贈していただきました。協議会の調整や最終の設置場所など協力させていただきました。9月上旬には5基設置が完了しました。



当初、団地内のロータリーに設置予定でしたが、地盤が軟弱なのが分かり、職員と確認しながら近くの児童公園内に設置が決定しました。



私の平成29年9月市議会定例会の一般質問をご紹介します

今回も、市長7つのビジョンから質問し、市長、副市長、部長から答弁をいただきました。



1. 新しい福祉のかたちについて

●私が考える「仮称：福祉ヴィレッジ」とは (答弁者：市長)

多世代共生型施設「仮称：福祉ヴィレッジ」は、その11の重点プロジェクトのなかの一つ「新しい福祉のかたち」として掲げ、整備を促進しようとするものである。私は、多くの方々と意見交換するなかで、縦割りを打破し、意識を変えていく必要があると強く感じている。地域社会を取り巻く環境が大きく変化し、福祉ニーズが多様化・複雑化する現代社会において、これまでの福祉サービスの他に、縦割りを排し、高齢者、しょうがい者、子どもなどの福祉サービスを総合的に提供する仕組みが必要である。また新たな

時代に対応した「高齢者・しょうがい者・子ども等を分け隔てなく、包括的・総合的に支援する仕組みの構築」には、厚生労働省も、その方向性を示しているとともに、全国市長会としても「多世代交流・共生のまちづくりに関する特別提言」を行なっている。

答弁に対する私の思い

会派で視察にいきました、「富山型デイサービス（このゆびとまれ）」「富山市まちなか総合ケアセンター」金沢市「シェア金沢」のような包括的・総合的に支援する仕組みを早急に市でも実施していく働きかけしていきます。

2. 自転車について

●自転車保険・点検整備について（答弁書：経済環境部長）

議員質問の自転車通勤の人数や保険加入率について、本年、自転車通勤をしている職員は120人程度で全体の1割強となっている。自転車保険の加入率に関しては、職員に対してアンケートを実施したところ、有効回答数599人のうち、自転車保険加入者は180人で、全体の約30%、赤色TSマーク保険に関しては、加入者は69人で、全体の約11%という結果。警察や交通安全協会などの関係機関としっかりと連携し、引き続き自転車の交通事故抑制に取り組んでいく。

答弁に対する私の思い

この質問は1年前にもしています。意外と保険加入者が少ないことに驚きました。名古屋市でも保険加入が義務化になっています。意外と知られていないのが自動車保険で家族の自転車の事故に対応する方法があります。是非自動車保険のご確認と見直しを。

3. 大規模盛り土について

●盛り土造成地の公表について（答弁書：都市整備理事）

大規模盛土造成地とは、谷などを埋め盛土する面積が3千㎡以上又は、斜面の片側を盛って造成前の角度が20度以上かつ盛土の高さが5m以上の造成地のことをいう。三重県内では29市町のうち、尾鷲市、熊野市、木曾岬町、川越町、明和町、大台町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町の11市町が公表しており、大規模盛土造成地マップの公表率は37.9%となっている。これら公表している11市町はすべて、大規模盛土造成地が存在しないことを公表しているものであり、存在している盛土造成地の位置を公表している市町は現在のところない。

4. 豪雨対策について

●気候変動によるこれからの対策について（答弁者：上下水道管理者）

浸水被害の軽減となるよう、過去に浸水した排水能力の低い地域周辺で0.3ha以上1ha未満の開発を行なう際には、桑名市開発行為に関する指導要綱に基づき、開発行為に伴い増加する雨水などの流出量を調整するため、一時貯留の調整槽を含めたその他適当な施設を設置してもらうよう指導している。しかし、それだけでは、雨水排水対策としては、十分なものではなく、議員紹介の岡崎市や他の市において、取り組まれている雨水流出の抑制や対策の先進事例を今後も注視する。

5. 多度工業団地内の安全対策について

●工業団地内の企業に通勤する従業員の安全対策について（答弁書：都市整備部長）

地区内のカーブミラーや街路灯の設置については、隣接する多度アイリスパークの利用なども考慮し、検討していく。横断歩道の設置については、所管の公安委員会に対し、進捗が図られるよう強く働きかけをしていく。県道御衣野下野代線の横断歩道の設置や信号の時差式への変更についても、所管の県および公安委員会は要望していく。



答弁に対する私の思い

三重県も企業誘致を推奨していますが、推奨しているだけで、安全確保までは考えていないようです。団地内で働いている市民の方は沢山います。安全面からも早急な改善を働きかけしていきます。

6. 市街地の保全について

●街路樹の整備について（答弁者：都市整備部長）

「アセットマネジメントモデル事業」において、桑名市内の街路樹について調査を実施し、市全体の本数の約3分の2の街路樹を有する大山田地区全体における省インフラ化についての基本的な方針や、省インフラ化の手法、また、実践にむけた課題の抽出までの作業が行なわれているが、今後は、より具体的な手法について検討を行なうため、一定の地区を対象に地元との意見交換の場を設け、住民の意見を反映した省インフラ化の方策を取りまとめていく予定。

7. 桑名市物産観光案内所について

●レンタサイクルのあり方について（答弁者：都市整備部長）

議員指摘のサンファール内の保管の自転車については、事務所に配置するものですべて借り出された場合に、利用者の方には少々待っていただくことになるが、職員で、保管場所から受付場所である物産観光案内所に移動の後に利用者の方に貸し出している。これまでサンファール内の保管分は、点検業務を週に1回程度、空気圧の確認程度となっていたが、改めて保管するすべての自転車の点検・清掃作業を行なったところである。



8. 北勢地域のスポーツ施設のあり方について

●本市が考える公認規格のスポーツ施設の配置について（答弁者：市民生活部長）

県内の大規模なスポーツ大会や試合等が開催可能な県営のスポーツ施設は、鈴鹿市のスポーツガーデン、松阪市の松阪野球場、伊勢市の総合競技場がある。議員案内のとおり、北勢地域には県営の大規模なスポーツ施設はない。公認規格のスポーツ施設整備については、地域的なバランスを考慮した配置となるよう、県へ要望を検討する。

（右の写真は東員町陸上競技場で昨年開催された、三重県しょうがい者スポーツ大会）



答弁に対する私の思い

東員町の公認規格3種の陸上競技場ですが、今回は公認廃止届を出さず、1年間公認申請を延期することとなりました。この競技場で練習や記録会に出場し、全国レベル、国際大会レベルに育った選手は数多くおり非常に残念でなりません。私が現役時代から思っていました、三重県もジュニアの育成とっていますが、強化費を渡すだけでは無理です。環境も整備し選手のモチベーションを上げるのも必要です。

9. 働き方改革について

●働き方改革推進室の事業内容について（答弁者：副市長）

働き方改革の試行的な取組みを行なう「モデル課」を4課選出し、業務に合わせて時差出勤を活用し、時間外勤務を削減すること、課内のスケジュールと業務の共有化による効率化、各自で誕生日や結婚記念日にメモリアル休暇として、休暇を取得することで、有給休暇取得率の向上を図ること、上司が率先して定時退庁に努めることで、帰りやすい職場環境を作るなどの取組みを実践する。議員から先進市、特に郡山市の取組みである各課共通事務の見直しについては、本市でも参考となる点が考えられる。共通事務の簡素化や集約化が図られることができれば、長時間労働の是正につながり、目標と掲げるワークライフバランスが確立できる一助になると考える。また長年、組織の見直しがされていないため、同じような業務を行なっている組織が点在し、細分化されることで、縦割りの弊害が出ている。時代と共に組織を変化させていく必要があり、縦割りを打破する再編を行なう。

以上